

光 市 記 者 発 表 資 料

令和5年2月7日

件名

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会の
報告書の提出について

内容

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会から、下記のとおり報告書が教育長に提出されましたので、お知らせします。

記

1 件名

施設一体型小中一貫やまと学園の場所について（報告書）

2 提出者

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会（宮尾智義委員長）

3 提出日

令和5年2月3日

4 内容

別冊のとおり

5 備考

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会（委員69名）は、施設一体型小中一貫やまと学園の新設に関して協議し、協議の結果を教育長に報告する役割を担います。

問合せ

担当課

教育委員会教育総務課

担当者

教育総務課長 吉永 晋太郎

管理係長

清水 剛

電話 0833-74-3601

施設一体型小中一貫やまと学園の場所について（報告書）

令和5年2月

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会

- 目次 -

1 学園の場所についての基本的な考え方	・・・ P 1
2 選定基準	・・・ P 1
3 候補地に関する考察の結果	・・・ P 1
(1) 岩田小学校	・・・ P 2
(2) 大和中学校	・・・ P 3
(3) 大和総合運動公園	・・・ P 4
(4) 3 候補地共通課題	・・・ P 5
4 まとめ	・・・ P 5
5 補足資料	・・・ P 6
(1) 協議経過	・・・ P 6
(2) 3 候補地の場所	・・・ P 6
(3) 施設一体型小中一貫やまと学園新設候補地の比較	・・・ P 7
(4) 選定基準別候補地のいいところ	・・・ P 8
(5) 選定基準別学校運営上の懸念される事項・課題等	・・・ P 9

1 学園の場所についての基本的な考え方

■施設一体型小中一貫やまと学園の場所を検討するにあたり、教育委員会から「施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に係る方針」等に基づき、岩田小学校・大和中学校・大和総合運動公園を検討候補地とする提案を受けた。

【施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に係る方針（令和4年3月策定）】

○原則として、地域の皆様に親しまれている現校地を第一に検討するとともに、できる限り現有施設を有効に活用することを検討。

※新しい学園の機能を賄えるだけの場所があれば、候補地の1つになる。

■準備委員会では、「学園の場所」として大切にしたい視点や項目を検討し「選定基準」としてとりまとめ、教育委員会から提案のあった3候補地について、選定基準に基づき、いいところや学校運営上の懸念される事項・課題を協議し、考察を深めた。

2 選定基準

「学園の場所」を検討する上で大切にしたい選定基準は、ワークショップの意見を踏まえ、以下の9項目に整理した。

- ①「安全・安心」
- ②「通学・交通」
- ③「学習活動」
- ④「環境」
- ⑤「自然」
- ⑥「広さ」
- ⑦「施設・設備」
- ⑧「集まりやすさ・大和の中央」
- ⑨「地域・交流」

3 候補地に関する考察の結果

3候補地について、上記2の選定基準に基づき、いいところや学校運営上の懸念される事項・課題を協議し、候補地ごとの考察の結果を以下のとおりとりまとめた。

なお、懸念される事項・課題については、選定基準の中の、「安全・安心」「通学・交通」「施設・設備」の3項目を中心に、学校運営部会で協議を進めた。

(1) 岩田小学校

■いいところ

- ・ハザードがなく災害に強い
- ・多くの児童生徒が徒歩通学できる
- ・駅に近く交通アクセスが良い
- ・公共施設や企業等が近く生活の中央である
- ・静かな場所で日当たりが良い
- ・交通量が少ない
- ・公の施設が近く地域学習や校外学習がしやすい
- ・店や企業等と近い
- ・山などの自然がある
- ・既存施設を活用できる
- ・大和総合運動公園と近い

■懸念される事項・課題

- ・自転車通学をはじめ通学路の安全確保が必要である
- ・大和大橋付近の交通量が多い
- ・通学距離が6 km以上となる地域がある
- ・敷地に一定の広さが必要、敷地の確保が難しい
- ・校舎や体育館などの既存施設が老朽化している
- ・体育館やグラウンドの広さが懸念される
- ・プールが小学校仕様である
- ・駐車場が狭い
- ・施設整備の騒音や振動で学習に影響がある
- ・仮設校舎の対応が必要になる
- ・騒音など近隣への影響がある

■考察の結果

- ・「学習活動」について、生活圏の中心に位置し、公の施設や駅、店、企業と近く、地域学習や校外学習が行いやすい。
- ・「安全・安心」について、現在、学校運営が行われている場所であり、校内での安全面での課題は少ないと考える。
- ・「通学・交通」について、大和地域の西側に位置し、地区によっては通学に時間がかかることが考えられる。また、大和大橋付近では、多くの子どもの徒歩・自転車通学による交通量の増加から、安全の確保が懸念される。一方、生活圏の中心に位置し徒歩圏域の児童が多いことから、スクールバスの必要な台数は最も少ない。
- ・「施設・設備」について、既存施設はあるが老朽化が進んでいることから、施設の整備に加え、整備時の学習への配慮等、整備工程等の工夫が求められる。また、児童・生徒がともに過ごすことを踏まえ、現状の広さが妥当かどうか検討する必要がある。

(2) 大和中学校

■いいところ

- ・ハザードがなく災害に強い
- ・周りに土地があり広げられる可能性がある
- ・平地である
- ・バスが通っている
- ・大和地域の中心地で、どの地域からも通学距離が6 k m以内でバランスが良い
- ・静かな場所で日当たりが良い
- ・交通量が少ない
- ・山・川・田などの自然がある
- ・石城山に近く行きやすい
- ・既存施設を活用できる

■懸念される事項・課題

- ・自転車通学をはじめ通学路の安全確保が必要である
- ・川向こうの山の安全性
- ・駅から遠く他地域からの通学が不便である
- ・スクールバスの台数が多く適切な運行が必要である
- ・敷地に一定の広さが必要であり、敷地の確保が難しい
- ・校舎や体育館などの既存施設が老朽化している
- ・体育館やグラウンドの広さが懸念される
- ・プールが中学校仕様である
- ・施設整備の騒音や振動で学習に影響がある
- ・仮設校舎の対応が必要になる

■考察の結果

- ・「環境」「自然」について、周囲に山・川・田などの自然があり、静かな場所に位置している。
- ・「安全・安心」について、現在、学校運営が行われている場所であり、校内での安全面での課題は少ないと考える。
- ・「通学・交通」について、大和地域の地理的な中心に位置し、どの地域からも通学距離が6 k m以内でバランスが良い。一方、多くの児童のスクールバスの利用が見込まれ、バス機能を充実させる必要がある。
- ・「施設・設備」について、既存施設はあるが老朽化が進んでいることから、施設の整備に加え、整備時の学習への配慮等、整備工程等の工夫が求められる。また、児童・生徒がともに過ごすことを踏まえ、現状の広さが妥当かどうか検討する必要がある。

(3) 大和総合運動公園

■いいところ

- ・敷地面積が広くいろいろな活動ができる
- ・多くの児童生徒が徒歩通学できる
- ・駅に近い
- ・大和地域の生活圏の中央で集まりやすい
- ・日当たりが良く高台で水はけが良い
- ・学校運営に影響なく学園の施設整備ができる
- ・地域住民が多く交流できる
- ・公共施設等が近く人が集まりやすい
- ・施設の共用がコミュニティ・スクールとして利点がある
- ・施設が新しく体育館や柔剣道場にエアコンがある
- ・ナイター設備がある
- ・ロードレース大会を校内で開催できる

■懸念される事項・課題

- ・ハザードがある
- ・敷地の見通しが悪い
- ・夜間を含めて不特定の利用者が多く共用や対応が難しい
- ・スポーツセンターで大きな大会が開催される
- ・通学路の安全確保が必要である
- ・通学距離が6 km以上となる地域がある
- ・保護者の送迎が増加する
- ・一般利用者と施設を共用するため使い分けが必要である
- ・学校の自由な使用ができない懸念がある
- ・一般利用者の理解を得る必要がある
- ・プールの新設場所が必要である
- ・掃除などの環境維持が難しい
- ・都市公園法などの法規制がある

■考察の結果

・「安全・安心」について、現在、都市公園として運営され、不特定多数の利用者がいることから、安全面が懸念される。一方で、多様な人が近くにいることをメリットとして捉える考え方もあるが、そのためには、公園利用者や団体等との交渉や調整が必要になる。また、敷地にハザードがあるため、対策が必要となる。

・「通学・交通」について、多くの児童のスクールバスの利用が見込まれ、バス機能を充実させる必要がある。

・「施設・設備」について、既存施設や広いグラウンドなど充実した公園機能の活用が可能と考えるが、施設の共有については、現利用者との共用や学校開設時の運用などで様々な調整が必要となる。

・「安全・安心」「施設・設備」について、都市公園としての法規制は、学校を新設する際の大きな制約になることが懸念される。

(4) 3候補地共通課題

・「通学・交通」について、いずれの候補地もすべての児童・生徒が一か所に通うため、登下校時の交通量や通学路の安全確認、さらには、新たな通学路の検討など、児童・生徒の「安全・安心」を第一に考えていく必要がある。

4 まとめ

■教育委員会から提案のあった3候補地について、いずれの候補地もいいところがある一方、学校を運営する上で、様々な懸念される事項・課題があった。

■候補地を選定するにあたっては、これらの課題等が解決できるか否かを含め、対応策を検討していく必要がある。

■とりわけ「安全・安心」は、子どもたちの学びを第一義に考えたとき、最も大事な事項であることから、これを踏まえ検討を進めていただきたい。

■また、学園の場所と並行し検討していく小学校の複式学級の解消については、学園の場所が決定した後の施設整備進捗にとらわれることなく、スピード感を持った検討及び対応をお願いしたい。

■本準備委員会で協議し、考察した内容を踏まえ、子どもたちの学びを第一義に、「夢と希望にあふれ 未来へ輝く『光っ子』の育成」の実現に向けた施設一体型小中一貫やまと学園を新設していただくよう、検討をお願いしたい。

5 補足資料

(1) 協議経過

ア 令和4年12月14日 第1回執行委員会

教育委員会から「学園の場所」について、岩田小学校・大和中学校・大和総合運動公園を検討候補地とする提案を受ける。

イ 令和4年12月21日 第2回ワークショップ

「学園の場所」として大切にしたい視点や項目を検討し「選定基準」としてとりまとめ、3候補地のいいところを洗い出す。

ウ 令和5年1月11日 第1回学校運営部会

3候補地における学校運営上の懸念される事項や課題を協議する。

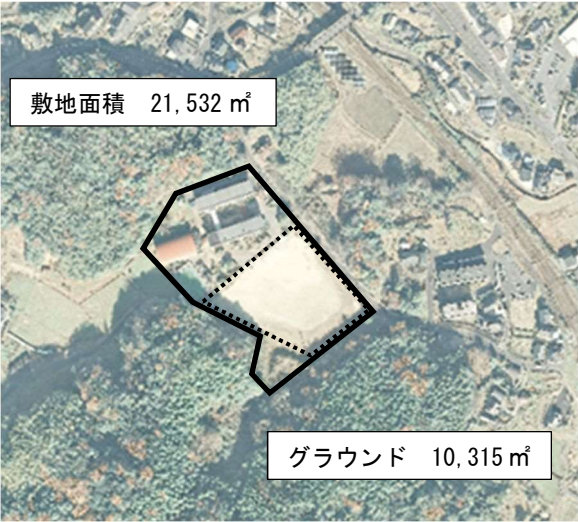
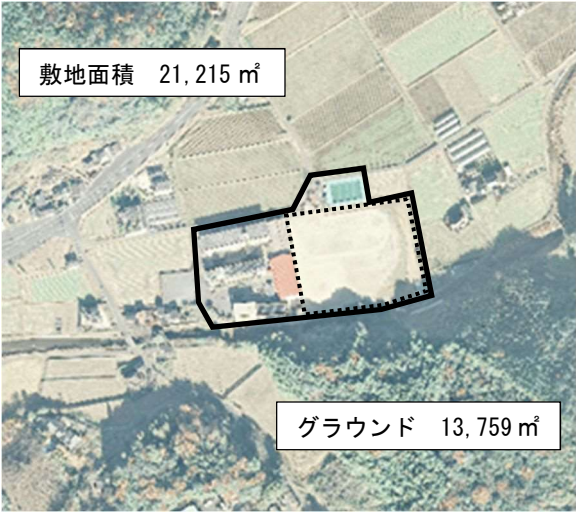
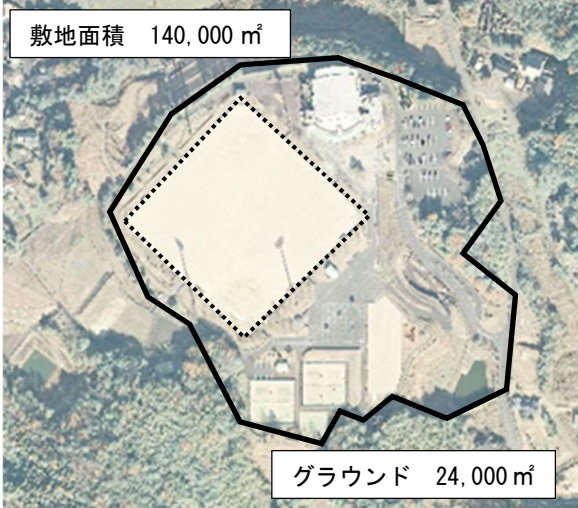
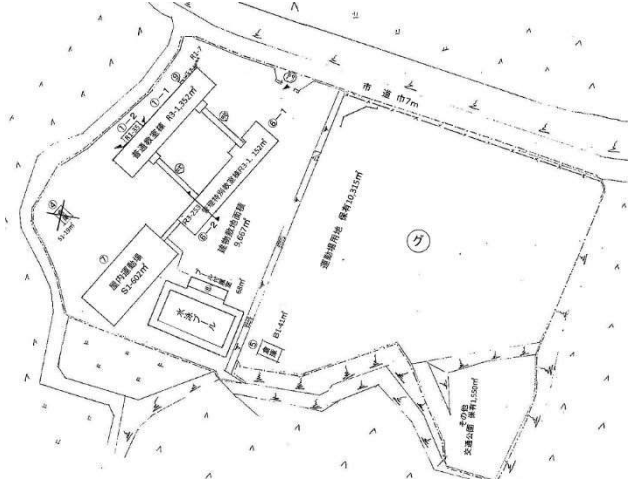
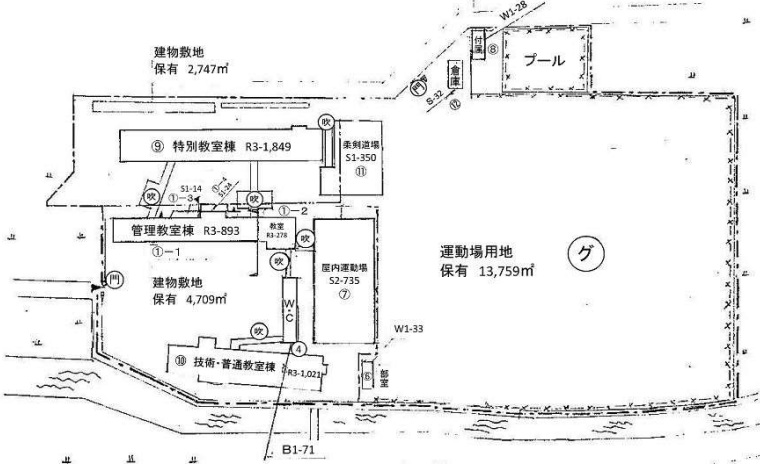
エ 令和5年1月25日 第2回執行委員会

学校運営部会の報告を受け、準備委員会の協議結果を議決する。

(2) 3候補地の場所



(3) 施設一体型小中一貫やまと学園新設候補地の比較

	①岩田小学校		②大和中学校	③大和総合運動公園
施設の種類	学校施設		学校施設	都市公園施設
航空写真 ※同一縮尺				
施設配置図				
校舎	2,799 m ² (建築面積 1,292 m ²)	北棟 1,394 m ² (S52 築) 南棟 1,405 m ² (S53 築)	4,041 m ² (建築面積 1,975 m ²)	北棟 1,849 m ² (S55 築) 中央棟 1,171 m ² (S36 築) 南棟 1,021 m ² (S60 築)
体育館	602 m ² (S53 築)	(建築面積 643 m ²)	735 m ² (S45 築)	(建築面積 720 m ²)
武道場	なし		350 m ² (S60 築)	(建築面積 415 m ²)
プール	600 m ² (S59 築)		700 m ² (S41 築)	
ハザード	なし		なし	
法規制・制限	なし		なし	
安全対策	現状とほぼ同じ		現状とほぼ同じ	
通学方法	徒歩・自転車・スクールバス 中学生の通学距離の目安となる 6 kmを超える地域がある。		徒歩・自転車・スクールバス	
その他 考慮すべき事項	既存施設の活用、学校運営と並行しての整備工事 周辺環境の整備 (敷地拡張に向けた整備、スクールバスの転回場、駐車場、駐輪場、ハザードの解消 等)			

(4) 選定基準別候補地のいいところ

選定基準	①岩田小学校	②大和中学校	③大和総合運動公園
安全・安心	安全・安心な場所（ハザード）、災害に強い	安全・安心な場所（ハザード）、災害に強い 見通しがよい	避難所として利用できる
広さ		周りの土地を広げられる可能性 周りに土地がある 平地	敷地面積が広い・きれい いろいろな活動ができる広さがある 駐車場が広くとれる、バス転回 OK
通学・交通	通学効率がよい、通学路の安全（歩道の確保） 駅に近い、アクセス、交通、区域外	通学手段に問題なし バスがある	通学効率がよい 駅に近い
集まりやすさ 大和の中央	公共施設、生活の中央	大和地区の中心、中心地・6 km以内 通学距離が同じくらい、バランス〇、公平	中心地、大和地域の生活圏の中央 集まりやすい（交通面でも）
環境	静かな場所・周りが静か、日当たりがよい 交通量が少ない	静かな場所、日当たりがよい 交通量が少ない	日当たりがよい・明るい（日照） 高台（水はけがよい）
学習活動	地域学習の場所に近い、校外学習・町たんけん◎ 公の施設に近い		伊藤公記念館へ最も近い 建設中の学びの保障
地域・交流	地域住民との関わり 駅、店、コミセン、交番に近い 企業、店の位置 生活圏がフラット 近所とのトラブルなし	土地がフラット	交流ができる・地域住民が多い 人（地域・地域外）が集まりやすい 共用の利点（コミスク的な） 地域と施設共有 病院に近い
自然	自然がある、山がある	川がある、山がある、自然 田んぼに囲まれている 石城山に近い・行きやすい	
施設・設備	既存施設を利用できる プールがある グラウンド〇、グラウンドはまあまあ広い	既存施設を利用できる 武道場がある プールがある グラウンドが広い、グラウンドの形、広さ 増設しやすい	施設が新しい 新校舎・プールが作れる 体育館が広い・ホールにもなる アリーナ・柔剣道場にエアコンがある グラウンドが広い ナイター設備がある クラブチーム化にも対応 道路、駐車場が整備されている ミニ公園があるので、幼保が作れそう 形〇 大きな和の形
その他	スポーツ公園に近い スポセンとつながるかも		独自性のある学校が作れる ロードレースが校内で開催できる 予算低 開放感がある 4小1中、みな平等

(5) 選定基準別学校運営上の懸念される事項・課題等

選定基準		①岩田小学校	②大和中学校	③大和総合運動公園
安全・安心	課題 懸念事項	●通学路の安全確保 ●大和大橋付近の交通量	●通学路 ●川向こうの山の安全性	●ハザード ・擁壁があっても子どもが危ない ●周りの見通しが悪い ●不特定多数の利用 ・不特定の利用者（夜間） ・部外者の進入を管理するのが難しい ・不特定多数の人をどう仕分けるか ・公園利用者との施設共用の難しさ ●大きい大会が開かれる ●CS ルーム、民間事業者や商業施設の設置
		●建設中のプレハブ校舎はかわいそう ●通学路の安全に対応できるか ●道路整備		
	解決案		●総合運動公園なら簡単（※建設中の対応）	●囲いを作る ●I Dカードでの利用 ●行動範囲を分ける
		●自転車通学の安全性確保		●不特定の利用者をメリットと考える ・多くの目に触れる ・多様化社会を自分らしく生き抜く力
通学・交通	課題 懸念事項	●通学時間がかかる ・通学時間（距離）がかかる ・位置が偏りすぎ ●6 k m以上（朝夕混雑、部活動）	●他地域から来る時に不便（岩田駅から遠い） ●スクールバスの台数が多い ●スクールバスの時間差出発（低学年と中高学年）に対応できるのか ●小学生の足の確保	●通学路の危険性（通学するのに危険個所が多い） ●6 k m以上（朝夕混雑、部活動） ●保護者の送迎増加
		●朝　ピックアップ方法 ●夕　利用者の把握、時間差		
施設・設備	課題 懸念事項	●土地の確保が難しい ・中学生と小学生の運動機会を考えると一定の広さが必要 ・土地の拡張はできるか ●施設が古い ・校舎、体育館が古い ・体育館がシロアリでいっぱい ・特別教室が狭い ・プールが小学校仕様 ●駐車場の確保	●土地の確保できるのか ・敷地の確保 ●校舎が古い、老朽化している ・今の校舎をどう生かすのか ・外廊下は大丈夫か	●施設の共有方法 ・一般の利用者との使い分け（施設） ・共有部分を誰が仕分けるか ・学校の自由な使用は不可能か ・公園利用者との兼ね合い ・学校と公園部分を仕分けられるか ●学習中の地域利用（地域との共有、ほとんどが共有部分） ●プールの新設場所
		●体育館の広さは小中全員が収容できるのか ●建設中の騒音・振動による学習への影響（プレハブ？） ●プールの深さは小1と中3で同じでよいものなのか ●グラウンドの広さ		
	解決案	●新校舎を建てる ●建設中は三輪小へ通う	●新校舎を建てる	●平日は優先して学校が使用する ●調整してくれる人 ●共有の体育館にする ●駐車場に校舎を建てて公園部分と区別する
その他	課題 懸念事項	●近隣住民とのトラブル ●騒音に対する苦情		●広すぎると環境維持が難しい（掃除） ●法改正にかかる時間 ●一般の利用者の理解が得られるか
		●施設が利用可能か		